

2010年秋の旅を実施しました

「小田原・箱根 — 原三溪の足跡をたずねて」

今回はいつもの美術館を飛び出して、『原三溪翁伝』に登場する三溪ゆかりの別荘や茶室を小田原・箱根に訪ねました。小田原から貸切バスに乗り込み、強羅公園にある茶室「白雲洞」や三溪が漢詩を詠んだ早雲寺、そして耳庵・松永安左エ門の住居だった「老櫓荘」などをめぐりました。



← 強羅公園内「白雲洞茶苑」。
三溪はこの茶室を鈍翁・益田孝からプレゼントされました。
自然の斜面と巨石が建築と庭に調和しています。



→ 白雲洞の隣棟は、三溪が作った「対字齋」。広縁の正面に大文字山の「大」の字が見えます。



↑ 『翁伝』 p. 262に登場する、関東大震災時に三溪が本を読みながら寄りかかっていた柱とはこれかも…



芦之湯では三溪の別荘「去来山房」があったと言われている場所を車窓見学。



早雲寺を題材に三溪が詠んだ漢詩が『翁伝』 p. 683に掲載されています。



松永記念館「老櫓荘」では解説を聞きながら、気づきにくい細部までしっかり見学しました。



← 『翁伝』 p. 668で三溪が興味を持った地名「唐人町」。現在も小田原市浜町の信号機に地名が残っています。



山縣有朋の別荘「古稀庵」を門前から見学。